

自主課題研究（オンライン）

要旨

第1日目：8月25日（木）

社会対話「環境カフェ」の実践—気候変動をテーマに

多田満（国立環境研究所）・田中迅（九州大学）

キーワード:対話、環境カフェ、気候変動、オンライン、共感

「環境カフェ」は、環境・社会課題に関する話し合い（対話）で、参加者は、それぞれの経験（各人の感じたこと、知っていること、考えたこと）を対等・公平に聞き合い、ともに「学ぶ」「考える」ことで、対話の過程で相互理解と共感をえる（自分ごとと捉える）ことを目的とする。

「環境カフェ」は、これまでに大学のキャンパス内や公共のカフェ、あるいは研究所の一般公開（春の環境講座等）や学園祭（五月祭）、国際会議（国連海洋会議等）など国内外で対面、ならびに2020年からはオンラインで開催してきた。さらに2021年からは、おもに気候変動関連で活動する高校生と大学生による青年環境NGOのクライメート・ユース・ジャパン（CYJ）の勉強会でも定期（隔週）開催（オンライン）している。CYJでは、気候変動と「コロナ禍」をはじめ、2021年度はシリーズ「気候変動」で6回、2022年度からは、シリーズ「R.カーソン『沈黙の春』から気候変動問題を読み解く」として、気候変動関連のテーマで「環境カフェCYJ」を開催している。

そこで、本自主課題研究では、これまでに気候変動関連のテーマで開催した実践例を紹介し、実際の「環境カフェ」を下記の開催手順で「気候変動と新型コロナウイルス感染症」をテーマに、「問いかけ」は「私たち人間はコロナから何を学ぶのか」、ベン図の類型名は「生活」「地域」「地球」で「対話」の実践を体験していただく。

「環境カフェ」オンライン開催手順

1. 「話題提供」——あるテーマに関連する話題を提供する。
2. 「問いかけ」「回答」——テーマに関して参加者全員に問いかけて、参加者は関連する言葉（キーワード）をベン図でグループ分けし、チャットで発言することで認識を共有する。
3. 「対話」——参加者はチャットの発言をもとに経験を聞き合う。
「アンケート」（理解できたこと、共感できたこと）

質的研究法を学ぶ 9 質的研究のデザインと今後の展開

企画者（五十音順） 井村礼恵（東京経営短期大学）・小堀武信（日本環境教育フォーラム）・園田陽一（地域環境計画）・高橋宏之*（千葉市動物公園）・長濱和代（日本経済大学）・畑島英史（九州大学大学院）・浜泰一*（東京大学）・茂木もも子（東京農業大学）

*企画代表者

キーワード：質的研究、デザイン、COVID-19、フィールドワーク、インタビュー

質的研究法による社会調査が新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を受けて困難な状況が続いています。その一方でオンライン会議システムを活用したインタビューなど新たな試みも見られます。しかし、ここに来て見直さないといけないのは、やはりリサーチデザインとそれにふさわしい研究の方法なのではないでしょうか。学会会員の中にも、今後どのように研究を進めていけばよいか、悩んでいるかたもいらっしゃることでしょう。そこで、9回目を迎える「質的研究法を学ぶ 9」では、質的研究のデザインに焦点をあて、データ取得の工夫や COVID-19 の影響を踏まえた今後の展開について焦点をあてていきます。今回は、3名の報告を基に、環境教育の現場で、具体的にどのようなデザインが考えられるのか、また、リサーチデザインに対して、データ取得のために、どのように適切な方法を選んだらよいかを参加者のみなさまと意見交換を深めていければと考えております。

1. 趣旨説明（10分） 高橋宏之（千葉市動物公園） 14:30-14:40
2. 発表（3名、各20分）
 - ・茂木もも子 「リサーチの質はデザインで決まる！
～リサーチデザインの思考法～」 14:40-15:00
 - ・畑島英史 「授業評価から授業開発に至る分析方法の変化！
～教育実践研究の方法～」 15:00-15:20
 - ・浜泰一 「肝心なのは理論とデータのとり方！
～集団インタビューの事例～」 15:20-15:40
- 休憩— 15:40-15:50
3. ブレイクアウトルーム(30分) 15:50-16:20
- 休憩— 16:20-16:30
4. 各ルームからの報告（ふりかえり）(20分) 16:30-16:50
5. おわりに（「質的研究法を学ぶ会」へのお誘い等） 16:50-17:00

総合的な学習の時間から総合的な探究の時間へ

—「環境探究学研究会」の挑戦と探究学習の未来

長濱和代（日本経済大学）・向雅生（福岡県立三池工業高等学校）・佐藤真太郎（京都ノートルダム女子大学）・坂入亮太（横浜市立みなとみらい本町小学校）・水野克己（地域地盤環境研究所）・石田秀輝（京都大学特任教授）

キーワード：探究学習、PC×R サイクル、リフレクション、環境探究学研究会

2019年度から高校では「総合的な学習の時間」に変わり、「総合的な探究の時間」が導入され、探究学習（以下、探究）を取り入れた学習が必修となっている。今年度からは、さらに「理数探究」などの探究に関する教科が導入された。探究を学校教育の中でどのように取り入れたらよいのだろうか。

本企画の提案をさせていただくのは、環境探究学研究会（KANTANKEN）のメンバーである。アースウォッチ・ジャパンと（株）花王による教員フェローシップが廃止された翌年から、教員フェローを経験した仲間の声かけにより研究会が組織された。コロナ禍以前は、メンバー同士で声をかけあって研究会を開催し、日頃の教育や研究についての悩みを分かち合ってきた。2019年度からオンラインによる研究フォーラムや総会を組織して、ニューズレターや研究会の会報を刊行してきた。今年は約20名のメンバーが集まり、実践記録や研究方法をまとめた書籍を7月に刊行する予定である。本書を読んでいただくことで、探究を取り入れるヒントが見つければ幸いである。

より効果的な探究を、どのように展開したらよいだろうか。高校までの探究は、大学での研究と接続して、研究が深化されていく可能性がある。そのための理論として、「PC×R サイクル」の理論を確立させたメンバーがいる。「×R（クロスアール）」として、リフレクションをさせることで、より効果的な探究が実現できる。また小学校から大学教員になったメンバーが複数いる。大学生や児童・生徒らも研究会メンバーとして参加しており、毎年3月の研究フォーラム（大会）では、全国から高校生らが参加して、探究の成果を発表してきた。

この自主課題研究に参加いただくことにより、探究の楽しさを満喫するとともに、その意義と手法をぜひ共有いただければ幸いである。

【話題提供者】

1. 齋藤寛幸（北海道旭川西高等学校）「地域の特性を理解するプログラム開発」（仮題）
2. 学生（三池工業高等学校の高校生、または大学生に依頼中）
3. 今井将之（サイエンスカフェ えむしーじょう）探究学習の動機付けに「発表の場」をつくる

戦争・原発と環境教育のあり方

～ウクライナ情勢を踏まえて～

後藤忍（福島大学）

キーワード：ウクライナ，ロシア，戦争，原子力発電所，批判的思考力

2022年2月24日、ロシアが全面的なウクライナ侵攻を開始した。20世紀の悲惨な戦争の教訓から学んで構築されてきていたはずの国際秩序が再び脅かされ、多方面で大きな影響が生じている。戦争は人や生き物の命を脅かし、奪う行為であり、また、環境の深刻な破壊や汚染を引き起こすもので、決して許されるものではない。

今回の戦争でロシア軍は、核兵器の使用を示唆するとともに、侵攻の過程で原発の占拠や攻撃を実行したことで、核兵器の危険性や有事における原発のリスクが再認識された。また、ロシアとウクライナ双方が自国にとって都合のよい情報を流すプロパガンダが積極的に行われるなど「情報戦」も熾烈であり、市民が情報の真偽を見極める冷静な批判的思考力がますます重要となっている。このような点は、平和教育や公害教育、原子力・放射線教育などと関連性があり、環境教育のアプローチとも接点があると考えられる。と同時に、環境教育が果たせる役割には限界があることも認識せざるを得ない。

本自主課題研究は、このような問題認識のもと、戦争・原発と環境教育のあり方について改めて議論する場となることを意図して企画した。ウクライナ情勢を巡る問題の捉え方について、これまでチョルノービリ（チェルノブイリ）原発事故や福島第一原発事故による被害者への支援や、国際関係の問題に取り組んでこられた学識経験者に講演をしていただくとともに、学会員による話題提供を踏まえて、環境教育の領域から行うべきアプローチについて参加者で議論したい。

【内容】（予定）

講演1 木村真三 氏（獨協医科大学准教授，放射線衛生学）

「歴史から見るウクライナとロシアの関係と原発事故」

講演2 清水奈名子 氏（宇都宮大学准教授，国際関係論）

「ロシアによるウクライナ武力侵攻がもたらす被害をどう教えるのか」

話題提供 後藤 忍（福島大学教授，環境計画）

「ウクライナ国立チョルノービリ（チェルノブイリ）博物館の展示説明文における旧ソ連政府批判」

総合討論

本自主課題研究は JSPS 科研費(20K01119)の助成を受けて実施予定である。

知る・わかる・伝えるSDGs



● 日本環境教育学会 監修
各定価2,200円

目標1~17はもちろんポストコロナ時代のSDGsも網羅した全4巻シリーズが刊行!



SDGsをより深めていくための手がかりとなる、これまでにないSDGsの必読テキスト。環境教育・ESD研究の成果をふまえ、「SDGs」と「教育」に関わる幅広い論点を扱う。教育分野の専門書として、SDGsの各目標の背景や問題の本質を学ぶために最適。

I 貧困・食料・健康・ジェンダー・水と衛生 阿部 治・野田 恵 編著

II エネルギー・しごと・産業と技術・平等・まちづくり 阿部 治・二ノ宮リムさち 編著

III 生産と消費・気候変動・海の豊かさ・陸の豊かさ・平和と公正 阿部 治・岩本 泰 編著

IV 教育・パートナーシップ・ポストコロナ 阿部 治・朝岡幸彦 編著

SDGsカリキュラムの創造

—ESDから広がる持続可能な未来

● 田中治彦・奈須正裕・藤原孝章 編著

定価2,200円

「持続可能な社会の創り手」の育成とSDGs学習について、実践例を元にSDGsカリキュラムを構想、羅針盤を提供。



スタディガイドSDGs

● 黒崎岳大 著

定価2,310円

SDGsについて学ぶ、大学生をはじめとした初学者の方へ向けた入門テキスト。理解するべきSDGsの基本概念について解説。



SDGsと学校教育

総合的な学習／探究の時間

—持続可能な未来の創造と探究

● 小玉敏也・金馬国晴・岩本泰 編著

定価2,200円

「総合的な学習／探究の時間」において、「変革を促す教育」を実践する教育潮流をつくり出すことを目指す。



カラフルな学校づくり

—ESD実践と校長マインド

● 住田昌治 著

定価1,980円

元気な学校は元気な教職員から!!じわじわと染みわたる等身大の学校変容。住田校長が多様性時代の学校づくりを語る。



SDGsと学校教育

教職概論

—「包摂的で質の高い教育」のために

● 岩本 泰・小玉敏也・降旗信一 編著

定価2,200円

日本の学校教育、これからの教育及び教職のあり様を考える。



社会変容をめざすESD

—ケアを通じた自己変容をもとに

● 曾我幸代 著

定価3,850円

ESDを自究し、ケアの観点から未来の可能性を教育からの変容に見出す。



動物園・水族館教育

● 朝岡幸彦 編著

2023年2月刊行予定

SDGs実現のための動物園・水族館教育(環境教育)のガイドラインを提案。

—すべての人びとが、意識を持ち行動につなげるために



SDGs時代のパートナーシップ

—成熟したシェア社会における力を持ち寄る協働へ

● 佐藤真久・関 正雄・川北秀人 編著

定価3,300円

市民企業自治体...等の先進的な取り組みの事例と課題・展望を多角的に論考。

「ESDでひらく未来」シリーズ



社会教育・生涯学習論

—すべての人が「学ぶ」ために必要なこと

● 鈴木敏正・朝岡幸彦 編著

定価2,090円

課題とそれらに取り組む諸実践を具体的に示し、今後の発展方向をさぐる。



SDGs時代の教育

—すべての人に質の高い学びの機会を

● 北村友人・佐藤真久・佐藤 学 編著

定価3,300円

SDGsの実現に向け、教育を通じた人材育成や知の創出を目指し多彩に論じる。



持続可能な未来のための教育制度論

● 小玉敏也・鈴木敏正・降旗信一 編著

定価2,530円

解決が必要な教育課題の解決に向け「自分ごと」として構想することを目指す。



SDGsとまちづくり

—持続可能な地域と学びづくり

● 田中治彦・枝廣淳子・久保田崇 編著

定価3,300円

地域人材を育てるための「学びづくり」に注目。教育活動の実践等の事情を紹介。



教育の課程と方法

—持続可能で包摂的な未来のために

● 鈴木敏正・降旗信一 編著

定価2,530円

現代教育の基本的課題をふまえ、包括的な内容をもつ新学習指導要領にも対応。



SDGsと環境教育

—地球資源制約の視座と持続可能な開発目標のための学び

● 佐藤真久・田代直幸・蟹江憲史 編著

定価3,300円

持続可能な開発を環境的側面から掘り下げ、SDGsの環境教育的な視座を提起。



持続可能な地域と学校のための学習社会文化論

● 降旗信一 編著

定価2,090円

4つのキーワードを編み合わせた持続可能な学習社会の創造へ誘う。



SDGsと開発教育

—持続可能な開発目標のための学び

● 田中治彦・三宅隆史・湯本浩之 編著

定価3,300円

グローバルな問題解決、持続可能な世界の実現を目指す全ての人々をナビゲート。

市民のための環境公開講座2022

オンライン
無料

開講30周年！参加者30,000人突破！！

認識から行動へー地球の未来を考える9つの視点ー

特別講座

8/21 (日)
10:00~
11:30

館内外の
魅力を
たっぷり
ご案内！

「環境水族館」アクアマリンふくしま オンラインツアー

アクアマリンふくしま 飼育展示部 展示第2グループ
上席技師/弁財天うなぎプロジェクト リーダー 春本 宜範氏



7/6
(水)

安定した地球環境（グローバル・コモンズ）を未来に引き継ぐために

地球を維持
するための
挑戦とは？

東京大学 理事
グローバル・コモンズ・センター
ダイレクター
石井 菜穂子氏



7/20
(水)

アドベンチャーレースの世界から見る自然界

話題
沸騰中の
プロアドベンチャー
レース！

プロアドベンチャー
レーサー
田中 陽希氏
田中 正人氏
「Team EAST WIND」所属



8/3
(水)

伝統知と生態系を活かした防災・減災

自然災害に
備える知恵
とは？

京都大学
准教授
深町 加津枝氏



9/7
(水)

誰でも気軽に楽しく 食品ロス削減に参加できるクラダシ

食品ロス。
誰もが参加
できる、その
対策とは？

株式会社クラダシ
代表取締役社長
CEO
関藤 竜也氏



9/21
(水)

四国一小さな徳島県 上勝町から広がるゼロ・ウェイスト

人はなぜ、
ごみを捨てる
のか？

株式会社
BIG EYE
COMPANY
Chief
Environmental
Officer
大塚 桃奈氏



10/5
(水)

土壌から考える気候変動と食糧危機

土が温室
効果ガスの
発生源!?

国立研究開発
法人森林研究・
整備機構森林
総合研究所
主任研究員
藤井 一至氏



10/19
(水)

企業が取り組むサステナビリティ ～「サントリー天然水の森における生物多様性の意義」～

「天然水」で
おなじみの
サントリー

サントリー
ホールディングス
株式会社
チーフ
スペシャリスト
山田 健氏



11/2
(水)

農業と農村の未来を拓くソーラーシェアリング (営農型太陽光発電)の最新動向

新しい農業
モデルの
最新動向と
は？

千葉
エコ・エネルギー
株式会社
代表取締役
馬上 丈司氏



11/16
(水)

変革のレシピ ～誰一人取り残さない環境教育～

未来へ繋がる
環境教育
とは？

環境活動家・
ドキュメンタリー
映像作家
佐竹 敦子氏



「市民のための環境公開講座」
は、(公財)SOMPO環境財団、
損害保険ジャパン(株)、(公
社)日本環境教育フォーラム
(JEEF)の3者が協働で開催す
る、1993年に開講した歴史あ
る環境講座です。
2022年は無料のオンライン講
座として全9回開催します。

詳細・申込はこちら

